

2021. 4. 29 ワークショップ2グループ討議記録

メンバー：URのOさん、大好きの会のKさん、Siさん、Shoさん、手嶋

O（URと市の交渉現状、建て替え時の話）：①ハコを用意して市に作ってもらう。市が借主であるため、賃料が発生する。

②場（オープンスペース）を用意して市に使ってもらう。賃料を抑えることもできる。現在は、建て替えの時期は決まっていない。URは団地の中に図書館があることは面白いと考えているが、残るかどうかは借主である市にご判断いただくことになる。市の財政、皆様の希望による。

K：現在の鶴川図書館は古いので、中味を整える必要がある。
市民一人ひとりの内面を築き上げるのが図書館。

Si：図書館は今の時代、単に本を読むだけの施設ではないのではないかと。希薄になっているコミュニティをつむぎ直す繋がりも大切では？

図書館に求めることは、例えば、情報が集まる場所、調べ物ができる場所、イベント、ワークショップができるもう少し伸びやかな場。すでに担当者がいるのであれば、構想を具体化し、お試しとして、やりたいことがある人は相談しながら一足早く、試行してみても、いいのではないかと。

Sho：団地の人の希望していることは、調べ物をしたり、ゆっくり閲覧する図書館が欲しいということ。ゆったりした空間が必要。
市民の参画については、全くわからない。

手嶋：市民参画については、現在のところ範囲は示されていない。受け皿となる市民の母体はできていないし、図書館の運営は、行政の責任である。
基本的な運営は専門性、継続性を保つために市が受け持つことが求められる。このことを市は受け入れないため、交渉が必要。

K：とにかく図書館を残して欲しい。市民のことを尊重して欲しい。

Si：URと市と名店街が交渉して構想を考えているのであれば、市民団体は名店会とのパイプを軸にアクションを起こせないか。
URが公募していたコミュニティービルダー（団地に住みながら問題を考える人。3万円の手当あり。）を巻き込んで議論することはできないのか？

K：コミュニティービルダーは、団地全体の活性化のために依頼しているため、図書館の在り方にクローズアップするのは難しい。情報提供と一緒に考えていただくことはできるかもしれないが、立場上強制することも難しい。

URでは、今、名店会の佐藤会長たちと話をしている。
図書館については、市の要望に基づいて計画を立てる。
市や住民の意向を踏まえ、オープンスペースにすることも検討できる。→ハコ（施設）

としての賃料にしないで済む。

事業をする上では図書館だけでなく、名店会の意向も踏まえなければいけないため、まだ、計画に落とせていない。

今後のすすめ方は、名店会との話し合い。

K： どうしてこんな世の中になったのか？歴史を考えてみたい。

Si： 鶴川は公民館的な活動が弱い気がする。

川又さんが指摘する政治を変えなければと言う意見はもったもで、例えば、地元の選挙では、議員にアンケートを取って意見を聞くとか、投票率 90%と言われるスウェーデンでは普通に行なわれているという学校で候補者に話してもらうようなことを企画できる図書館&公民館的な存在を求めるといのはどうか。鶴川の地は歴史的にも浪江度さんたちの地域文庫活動が盛んだったところ。その伝統を受け継ぎ、もし、浪江さんが生きていたら、どんな図書館、どんな活動を望むのか、考えてみることも大事ではないか？